

## 第1回愛媛県県立学校振興計画検討委員会の協議結果（概要）

- 1 日程等 令和2年9月2日（水）14：00～15：30 県庁第一別館3階第3会議室
- 2 出席者等 ○計画検討委員会委員 12人（オンライン出席、代理出席を含む）  
○教育委員会事務局 17人（教育長、副教育長、指導部長、他）  
○傍聴者 3人
- 3 次第 (1) 開会（教育委員会挨拶、委員等紹介）  
(2) 役員選出（委員長選出及び挨拶、副委員長指名）  
(3) 審議依頼  
(4) 議事（会議の公開について、事務局説明、意見交換）  
(5) 閉会

### 4 協議結果

- 委員長に 露口健司 愛媛大学教授、副委員長に 長井俊朗 県高等学校長協会会長を選出。
- 事務局説明  
「県立学校振興計画の検討体制及びスケジュール」「過去の再編整備」「高等学校の学校数と生徒数の推移」「学校魅力化の取組事例」等
- 委員による意見交換（主な発言内容）
  - ・情報技術を有する民間企業との連携した学校づくりも一つのアイデアである。
  - ・先進的に取り組んでいる他県の例も参考となる。
  - ・寮整備など魅力ある学校づくりのために、市町、NPO、民間の力を借りることが重要。
  - ・小規模校がなくなった場合に、地域医療、地域経済をどう維持していくかが課題。
  - ・4～8学級が適正というような考え方の中で、小規模校の魅力化の可能性も追究したらよい。
  - ・地域ならではの強みをどう生かすか、ICTを活用した学びの広がりをどのように進めるか、育てたい生徒像と教育の成果をどのように設定するか、などを検討する必要がある。
  - ・人口減少のシミュレーションを再点検するなど、精度の高いものを作れるよう注意深く。
  - ・中堅校における普通科改革が、今後、日本全体でも重要となってくる。
  - ・地域の産業を活性化し、仕事をつくっても、学校がなくなって教育ができないと住む人はいなくなる。少ない人数をどのように教育するかが重要。
  - ・生徒ごとに教育レベルを設定し、個別に最適な教育を行うことはできないか。
  - ・コロナ禍における思考の転換が必要であり、知恵を出し合うことが重要である。
  - ・経済界を活性化させるためにも、大学との連携が喫緊の課題と考えている。
  - ・小規模校の在り方をどのように考えていくか。
  - ・私立高校が県下全域から生徒を集めていることとの関係をどのように考え、計画を構築していくか。
  - ・学校と自治体との連携が重要であると考え。小規模校を残してほしいという地域の意見もある。
  - ・子どもの個性を伸ばす特色ある学校をどう作るか。生徒との関係を築き、生徒の個性を伸ばすことができる教員の育成が必要。
  - ・本検討委員会を開催し、第一歩のスタートを切ることができたことに意義を感じている。
  - ・学校振興計画の策定は、今後の愛媛において大変重要である。

#### 【担当】

高校教育課 魅力化推進G  
TEL 089-912-2954  
FAX 089-912-2949